生誕250年 神様になった伊良湖の歌人

糟谷磯丸

磯丸が詠んだ歌。その背景にある民衆の思い。
幕末という動乱の時代を駆け抜けた彼らが何を願い、喜び、悩み苦しんだのか。
そういった思いを一身に引き受け、ひたすら歌を詠み続けた伊良湖の歌人。
人々にあがめられ、ついには神様になった糟谷磯丸の足跡をたどります。

▼田原市博物館☎22局1720

夏ころも歌碑（伊良湖町／磯丸園地）

伊良湖を詠んだ歌（歌碑原本）

夏ころも　きてもみよかし　いらご崎　涼しき浪の　よるの月かげ

糟谷磯丸筆。歌を詠み始めたころの初期作。林織江の「伊良古之記」にも同義の歌の掲載がある。
「夏がきて、涼しい着物に着替える季節になりました。そんな着物を着て、ふらりと夏の伊良湖崎に来てください。月夜の砂浜に聞こえる波の音が涼しくて、何ともいえない気分になりますよ」
（渥美郷土資料館蔵）